

CBI と日本語教育の教材についての一考察：日本語学習者の意識調査から
EXAMINING JAPANESE TEACHING MATERIALS UTILIZING THE CBI
PERSPECTIVE:
FROM THE JAPANESE LANGUAGE SURVEY OF THE NEXT GENERATION
CURRICULUM

大須賀茂
Shigeru Osuka
Seton Hall University
(osukashi@shu.edu)

1. はじめに

2010年のアメリカ現代語協会 (Modern Language Association) によると、大学での日本語受講者数は1960年は1,746名であったが、1980年には11,506名に増加し、1990年には45,717名に、2002年には52,238名に、そして、2009年には73,434名が受講したと報告している¹。日本語学習者の増加や教師の努力により、日本語教材も変化している。例えば、1990年代からの日本語教科書は「ローマ字表記」から「かな表記」に変化し、語彙数の増量や文化の導入等の点では日本語教育の進歩や自信がうかがえる。また、近年の日本語教育では、日本語の構造や機能やその運用を研究する分野から、日本語学習を学習者自身の問題として実践・展開する分野を含んだ研究 (例えばCBI—Content Based Instruction、学習者のニーズ、専門日本語等) が研究対象になっている。

しかしながら、日本語教育には、国語教育の様な『新学習指導要領』「教材の取り扱いについて」がない。強く正しく生きる、生命の尊重、他人を思いやる、自然を愛す、国際協調の精神などを含んだ教材を扱う為のガイドラインが存在していない。では、日本語学習者自身は、CBI についてどの様に考えているのだろうか。本稿では、2010 年秋学期から 2011 年春学期にかけて Japanese Language Survey for the Next Generation Curriculum と題して 61 項目を 8 大学 11 名の日本語教師にお願いしアンケート調査を実施し、302 名の日本語学習者より回答を得た。その中で、現在使用中の日本語教材と将来の日本語教材について、それぞれ正義・平等 (justice and equality)、生命の尊重 (life and death-human dignity)、他人への思いやり (consider others)、環境 (natural environment)、国家意識の向上 (national unity)、協調性 (cooperation with friends, communities, and nations)、世界平和 (world peace) の 7 点について聞いてみた。既に学習者はこれらの内容は高校までに学習者の第一言語 (英語) で学習している内容でもある。このアンケート調査の結果を基に、将来の日本語教材の内容について考察をしてみたい。

¹ The complete results and a summary of the survey can be viewed online at http://www.mla.org/2009_enrollmentsurvey.

2. 変化する基準

既存の歴史的知識や事実として正当化されて理解されてきた出来事は時代の変化と共に変わる。それは、裁判所の判決にも似ている。裁判所の判決は判例を基に決められる場合が多いが、時代と共にその判例の基準が変化する事がある。例えば、外国語教育では、1996年にアメリカ外国語協会 (American Council on the Teaching of Foreign Languages - ACTFL) が、アメリカにおける外国語教育の質の向上と外国語教育の目標を明確に示す為に、外国語教育の基本概念 5Cs という『全国学習基準』(National Standards)を公表した²。『全国学習基準』の 5Cs とはコミュニケーション (Communication)、文化 (Culture)、連携 (Connections)、比較 (Comparisons)、コミュニティ (Communities) であるが、この『全国学習基準』が発表されるまでは、日本語教育ではコミュニケーションの分野の取得に目標がおかれていた。例えば、日本語教育では中・上級者になるまでは日本文化の導入は必要ないという意見もあったが、『全国学習基準』の文化を含むというガイドラインが出てからは、見方は一転して、いかに日本語教育の中で文化を教えるかが近年の日本語学会等で活発に討論され、現在では文化を初級から導入する事が普通になって来ている様にも見える³。

更に、教科書などの日本語教材を見ると、1990年代前半までは日本語教科書はローマ字版であったが、1990年代の後半から仮名版が主に出版され始め普及している。ただし、学校教育の限られた授業時間数と学習者の日本語を継続する2-3年間の間に、ローマ字版が適当か仮名版が適当かなどは、各教育機関の教師にまかされ、どちらが効果があるかなどの検討が十分行われてるとは思われない。もし基準の変化が可能であるならば、言語能力の取得にだけ重点をおいた教材から、学習者の興味に合わせた教材の開発も可能になる。しかし、現在アメリカで使用されている日本語教科書には、国語教科書などと比べると初級からの教材内容に関してはストラテジーは存在していない様に見える。

² ACTFL の全国学習基準の作成の背景には、多人種・多民族・多文化国家のアメリカ合衆国で、アメリカ人の根強い英語中心的な発想の克服や、外国語教育に目標がない為におきた外国語教師の戸惑いなどが挙げられる。そして、現在は『全国学習基準』を通して外国語教育界にも「National Standards」というある種の合言葉的な、アイデンティティが生まれているが、詳細に関しては基準が明確ではないのではないだろうか。See, ACTFL (1996), National Standards for Foreign Language Learning: Preparing for the 21st Century.

³ 例えば、ウェスリー・M・ヤコブセン (ハーバード大) は、文化を初級から導入することは以前は反対であったが、2007年の論文では、初級からの文化導入には慎重ではあるが認めている。「初級レベルの語学授業で取り上げる文化の内容として、実際その言語の文法、語彙構造等に反映されているような、日常生活の中で人間同士の接し方を律する文化的な要素—例えば、敬語、受動動詞、親族名等と関わりのある社会的な決まり—にとどめておくべきである」と指摘している。ウェスリー・M・ヤコブセン (2007)、“米全国語学学習基準の3Cをめぐる課題—アメリカの大学における日本語教育の観点から”『日本語教育』133号、51-56.

3. 国語の『新学習指導要領』について

文部科学省の『新学習指導要領』の小学校指導要領の第1節 国語によると、教材については、次の10の観点に配慮して取り扱うと示されている。

- ア) 国語に対する関心を高め、国語を尊重する態度を育てるのに役立つこと。
- イ) 伝え合う力、思考力や想像力及び言語感覚を養うのに役立つこと。
- ウ) 公正かつ適切に判断する能力や態度を育てるのに役立つこと。
- エ) 科学的、論理的な見方や考え方をする態度を育て、視野を広げるのに役立つこと。
- オ) 生活を明るくし、強く正しく生きる意志を育てるのに役立つこと。
- カ) 生命を尊重し、他人を思いやる心を育てるのに役立つこと。
- キ) 自然を愛し、美しいものに感動する心を育てるのに役立つこと。
- ク) 我が国の文化と伝統に対する理解と愛情を育てるのに役立つこと。
- ケ) 日本人としての自覚をもって国を愛し、国家、社会の発展を願う態度を育てるのに役立つこと。
- コ) 世界の風土や文化などに理解をもち、国際協調の精神を養うのに役立つこと。

アメリカの教師間では、内容のある教材は中・上級者からと一般的に考えられて教材が広まっている感がある。しかし、国語教科書には小学校1年生から内容の導入がなされている。例えば、国語教科書1上では『おむすびころりん』と『大きなかぶ』が扱われている⁴。『おむすびころりん』では幸せなおじいさんとおばあさんとの関係、動物たちとの触れ合い、勧善懲悪思想、周りの人に分け与える事の大切さなどを扱っている。更に、『大きなかぶ』では共同作業や動物との協調性の大切さ等を紹介している。

また、国語教科書1下は、『くじらぐも』で自然の中で仲良く遊ぶことの大切さや自然環境を考えさせている⁵。更に、『ずうっと、ずっと、大すきだよ』では、犬への愛情や、動物の病気と死等を扱っている。動物の病気や死を通して、生命を理解させようとしている。また、『どうぶつの赤ちゃん』でも、子供とお母さんの人間関係、『たぬきの糸車』は昔話して、動物と人間との理想的な関係や、人間が動物に対して優しくする意味、そして、動物でも恩返しをすることなどを情緒豊かに述べている。

国語教科書2上は、『ふきのとう』という春の季節を象徴する植物を扱い、日本人としての春の共通概念を教えている⁶。海外の作品であるが『スイミー』では、一匹の小さな魚の知恵と魚の群れが協力して敵に対して勝利する姿を描いて、団体行動の大切さ等を教えている。また、国語教科書2下では、『お手紙』で、「がまがえる」を主人公に様々な自然と動物と昆虫のふれ合いを紹介したり、『スーホーの白い馬』でも馬と人間のふれ合い等を扱っている。また、『おへそ

⁴ 『こくご1上 かざぐるま』光村図書(2000)

⁵ 『こくご1下 ともだち』光村図書(2000)

⁶ 『こくご2上 たんぽぽ』光村図書(2000)

って、なあと』では母親とのふれ合いや日常生活で大切なことを教えている⁷。小学校低学年から国語教科書では、動物・植物・昆虫など身近な題材を使い、自然の大切さや畏敬の念等を教えている。また、団体生活に慣れるように、国語教科書を通じ他人を助け合うことや協力することの大切さ等を扱っている。

4. アンケート調査から

2010年秋学期から2011年春学期にかけて Japanese Language Survey for the Next Generation Curriculum と題して61項目を8大学11名の日本語教師にお願いしアンケート調査を実施し、302名の日本語学習者（1年目115名、2年目71名、3年目45名、4年目71名）より回答を得た。その中で、現在使用中の日本語教材と将来の日本語教材について、『新学習指導要領』から正義・平等 (justice and equality)、生命の尊重 (life and death-human dignity)、他人への思いやり (consider others)、環境 (natural environment)、国家意識の向上 (national unity)、協調性 (cooperation with friends, communities, and nations)、世界平和 (world peace)の7点について質問を試みた。また、専攻者数は下記の様であった。

1. East Asian Studies/Japanese (including Asian Studies) -70 students
2. International Relations/Politics (including Criminal Justice) - 46 students
3. Math/Computer/Engineering -34 students
4. Biology/Chemistry/Health (including Nursing) -31 students
5. Business (including International Business/Trade, Accounting, Management) - 29 students
6. Others: Humanity (including Philosophy, Anthropology, History, English) -23 students
7. Arts & Music/Broadcasting - 20 students
8. Others: Social Sciences (including Psychology, journalism, communication) - 17 students
9. Others: Sciences (including Physics, geology) - 4 students
10. Undecided/unknown - 28 students

まず、過去と現在使用されている教材について日本語教材は下記の点を扱っていたか質問を試みた。

正義・平等 (justice and equality)

	Strongly Agree	Agree	Disagree	Strongly Disagree
人数 (%)	43(14.2%)	146(48.3%)	98(32.5%)	15(5%)

生命の尊重 (life and death-human dignity)

	Strongly Agree	Agree	Disagree	Strongly Disagree
人数 (%)	35(11.7%)	137(45.3%)	114(37.7%)	16(5.3%)

⁷ 『こくご2下 赤とんぼ』 光村図書(2000)

他人への思いやり (consider others)

	Strongly Agree	Agree	Disagree	Strongly Disagree
人数 (%)	82(27.2%)	186(61.6%)	26(8.6%)	8(2.6%)

環境 (natural environment)

	Strongly Agree	Agree	Disagree	Strongly Disagree
人数 (%)	45(15%)	143(47.4%)	100(33%)	14(4.6%)

国家意識の向上 (national unity)

	Strongly Agree	Agree	Disagree	Strongly Disagree
人数 (%)	59(19.5)	170(56.2%)	65(21.5%)	8(2.8%)

協調性 (cooperation with friends, communities, and nations)

	Strongly Agree	Agree	Disagree	Strongly Disagree
人数 (%)	104(34.4%)	172(57%)	23(7.6%)	3(1%)

世界平和 (world peace)

	Strongly Agree	Agree	Disagree	Strongly Disagree
人数 (%)	39(13%)	162(53.6%)	89(29.4%)	12(4%)

90%以上の学習者が日本語教材は「他人への思いやり」や「協調性」を扱っている事を認識しているようである。その反面、30%以上の学習者が「生命の尊重」「環境」「世界平和」などについての内容を扱った教材が少ない事を指摘している。

次に、将来の日本語教材に下記の内容を入れることについての質問では、

正義・平等 (justice and equality)

	Strongly Agree	Agree	Disagree	Strongly Disagree
人数 (%)	62(20.5%)	161(53.3%)	70(23.2%)	9(3%)

生命の尊重 (life and death-human dignity)

	Strongly Agree	Agree	Disagree	Strongly Disagree
人数 (%)	58(19.2%)	163(54%)	69(22.8)	12(4%)

他人への思いやり (consider others)

	Strongly Agree	Agree	Disagree	Strongly Disagree
人数 (%)	97(32.1%)	156(51.7%)	39(12.9%)	10(3.3%)

環境 (natural environment)

	Strongly Agree	Agree	Disagree	Strongly Disagree
人数 (%)	71(23.5%)	156(51.7%)	66(21.8%)	9(3%)

国家意識の向上 (national unity)

	Strongly Agree	Agree	Disagree	Strongly Disagree
人数 (%)	77(25.5%)	159(52.6%)	55(18.2%)	11(3.7%)

協調性 (cooperation with friends, communities, and nations)

	Strongly Agree	Agree	Disagree	Strongly Disagree
人数 (%)	131(43.4%)	150(49.7%)	16(5.3%)	5(1.6%)

世界平和 (world peace)

	Strongly Agree	Agree	Disagree	Strongly Disagree
人数 (%)	68(22.5%)	158(52.3)	67(22.2%)	9(3%)

90%以上の日本語学習者が「協調性」についての内容の教材を使用する事に同意を示し、85%の日本語学習者が「他人への思いやり」を扱った教材についても同意を示している。更に、全体的に75%の学習者は上記7点の内容に就いて同意を示しているので、学習者にとってはCBIは受け入れ易い事を示していると解釈できる。

次に、将来の教材を考える為に専攻別にも考察をしてみたい。

正義・平等 (justice and equality)

	専攻	Strongly Agree	Agree	Disagree	Strongly Disagree
1	East Asian Studies/Japanese	18(25.7%)	33(47.2%)	17(24.2%)	2(2.8%)
2	International Relation/Politics	11(23.9%)	25(25.3%)	10(21.7%)	0(0%)
3	Math/Computer/Engineering	6(17.6%)	18(52.9)	8(23.5%)	2(5.9%)
4	Biology/Chemistry/Health	5(16.1%)	14(45.2%)	12(38.7%)	0(0%)
5	Business	4(13.8%)	21(72.4%)	4(13.8%)	0(0%)
6	Humanity	4(17.4%)	10(43.5%)	8(34.8%)	1(4.3%)
7	Arts & Music/Broadcasting	4(20%)	14(70%)	1(5%)	1(5%)
8	Social Sciences	5(29.4%)	8(47%)	2(11.8%)	2(11.8%)
9	Sciences	0(0%)	2(50%)	2(50%)	0(0%)
10	Undecided/unknown	5(17.9%)	16(57.1%)	6(21.4%)	11(3.6%)

生命の尊重 (life and death-human dignity)

	専攻	Strongly Agree	Agree	Disagree	Strongly Disagree
1	East Asian Studies/Japanese	17(24.3%)	32(45.7%)	18(25.7%)	3(4.3%)
2	International Relation/Politics	11(23.9%)	24(52.2%)	10(21.7%)	1(2.2%)
3	Math/Computer/Engineering	6(17.6%)	20(58.8%)	5(14.7%)	3(8.8%)
4	Biology/Chemistry/Health	5(16.1%)	14(45.1%)	12(38.7%)	0(0%)

5	Business	3(10.3%)	22(75.9%)	4(13.8%)	0(0%)
6	Humanity	2(8.7%)	14(60.9%)	6(26%)	1(4.3%)
7	Arts & Music/Broadcasting	4(20%)	13(65%)	2(10%)	1(5%)
8	Social Sciences	5(29.4%)	7(29.4%)	3(17.7%)	2(11.8%)
9	Sciences	0(0%)	2(50%)	2(50%)	0(0%)
10	Undecided/unknown	5(17.9%)	15(53.6%)	7(25%)	11(3.6%)

他人への思いやり (consider others)

	専攻	Strongly Agree	Agree	Disagree	Strongly Disagree
1	East Asian Studies/Japanese	19(27.1%)	30(42.9%)	19(27.1%)	2(2.9%)
2	International Relation/Politics	18(39.1%)	25(54.3%)	3(6.5%)	0(0%)
3	Math/Computer/Engineering	9(26.5%)	20(58.8%)	2(5.9%)	3(8.8%)
4	Biology/Chemistry/Health	7(22.6%)	17(54.8%)	7(22.6%)	0(0%)
5	Business	7(24.1%)	20(69%)	1(3.4%)	1(3.4%)
6	Humanity	10(43.5%)	11(47.8%)	1(4.3%)	1(4.3%)
7	Arts & Music/Broadcasting	9(45%)	9(45%)	1(5%)	1(5%)
8	Social Sciences	6(35.3%)	8(47%)	2(11.8%)	1(5.9%)
9	Sciences	0(0%)	4(100%)	0(0%)	0(0%)
10	Undecided/unknown	12(42.9%)	12(42.9%)	3(10.7%)	11(3.6%)

環境 (natural environment)

	専攻	Strongly Agree	Agree	Disagree	Strongly Disagree
1	East Asian Studies/Japanese	22(31.4%)	28(40%)	18(25.7%)	2(2.9%)
2	International Relation/Politics	12(26%)	23(50%)	11(23.9%)	0(0%)
3	Math/Computer/Engineering	8(23.5%)	18(52.9%)	7(20.6%)	1(2.9%)
4	Biology/Chemistry/Health	4(12.9%)	17(54.8%)	10(32.3%)	0(0%)
5	Business	6(20.7%)	20(69%)	3(10.3%)	0(0%)
6	Humanity	4(17.4%)	11(47.8%)	7(30.4%)	1(4.3%)
7	Arts & Music/Broadcasting	5(25%)	12(60%)	2(10%)	1(5%)
8	Social Sciences	4(23.5%)	8(47%)	2(11.8%)	3(17.7%)
9	Sciences	0(0%)	2(50%)	2(50%)	0(0%)
10	Undecided/unknown	6(21.4%)	17(60.7%)	4(14.2%)	11(3.6%)

国家意識の向上 (national unity)

	専攻	Strongly Agree	Agree	Disagree	Strongly Disagree
1	East Asian Studies/Japanese	20(28.6%)	35(50%)	14(20%)	1(1.4%)
2	International Relation/Politics	16(34.8%)	17(37%)	11(24%)	1(2.2%)
3	Math/Computer/Engineering	10(29.4%)	15(44.1%)	7(20.6%)	1(2.9%)
4	Biology/Chemistry/Health	4(12.9%)	26(83.9%)	3(9.7%)	0(0%)
5	Business	6(20.7%)	17(58.6%)	6(20.7%)	0(0%)
6	Humanity	3(13%)	11(47.8%)	7(30.4%)	2(8.7%)
7	Arts & Music/Broadcasting	6(30%)	12(60%)	1(5%)	1(5%)
8	Social Sciences	4(41.2%)	9(52.9%)	0(0%)	3(17.7%)
9	Sciences	0(0%)	2(50%)	2(50%)	0(0%)
10	Undecided/unknown	8(28.6%)	14(50%)	4(14.2%)	2(7.1%)

協調性 (cooperation with friends, communities, and nations)

	専攻	Strongly Agree	Agree	Disagree	Strongly Disagree
1	East Asian Studies/Japanese	40(57.1%)	25(35.7%)	5(7.2%)	0(0%)

2	International Relation/Politics	18(39.1%)	26(56.2%)	2(4.3%)	0(0%)
3	Math/Computer/Engineering	13(38.2%)	20(58.8%)	2(5.9%)	0(0%)
4	Biology/Chemistry/Health	12(38.7%)	18(58%)	1(3.2%)	0(0%)
5	Business	13(44.8%)	15(51.7%)	1(3.4%)	0(0%)
6	Humanity	8(34.8%)	14(60.9%)	0(0%)	1(4.3%)
7	Arts & Music/Broadcasting	9(45%)	9(45%)	1(5%)	1(5%)
8	Social Sciences	4(23.5%)	11(65%)	0(0%)	2(11.8%)
9	Sciences	0(0%)	2(50%)	2(50%)	0(0%)
10	Undecided/unknown	14(50%)	10(35.7%)	3(10.7%)	11(3.6%)

世界平和 (world peace)

	専攻	Strongly Agree	Agree	Disagree	Strongly Disagree
1	East Asian Studies/Japanese	21(30%)	30(42.9%)	17(24.3%)	2(2.8%)
2	International Relation/Politics	14(30.4%)	23(50%)	8(17.4%)	0(0%)
3	Math/Computer/Engineering	6(17.6%)	20(58.8%)	7(20.6%)	1(2.9%)
4	Biology/Chemistry/Health	3(9.7%)	16(51.6%)	12(38.7%)	0(0%)
5	Business	6(20.7%)	19(65.5%)	5(17.2%)	0(0%)
6	Humanity	3(13%)	14(60.9%)	5(21.7%)	1(4.3%)
7	Arts & Music/Broadcasting	6(30%)	11(55%)	2(10%)	1(5%)
8	Social Sciences	4(23.5%)	7(41.2%)	3(17.7%)	3(17.7%)
9	Sciences	0(0%)	2(50%)	2(50%)	0(0%)
10	Undecided/unknown	5(17.9%)	16(57.2%)	6(21.4%)	1(3.6%)

専攻別では、上記7点の内容を日本語教材に取り扱う事について約70%の学習者が同意している事が分かる。特に、「他人への思いやり」「国家意識の向上」「協調性」について大多数の学習者が賛成を示している、しかし、約35%のBiology/Chemistry/Health専攻の日本語学習者は「正義・平等」「環境」「世界平和」について必要ない方を選んでいる。

5. おわりに

日本語学習者の増加に伴い日本語教材の内容も変化している。例えば、1990年代からの日本語教科書は「ローマ字表記」から「かな表記」に変化し、語彙数の増量や文化の導入等の点で日本語教育の進歩や自信が伺える。また、近年の日本語教育では、日本語の構造や機能やその運用を研究する分野から、日本語学習を学習者自身の問題としてとらえる研究が盛んになってきている。このような環境の中で、CBIを通して日本語学習を更に意味ある学習へと広げられると思われる。

アンケート調査の結果、使用している日本語教材では、半数以上の学習者は正義・平等 (justice and equality), 生命の尊重 (life and death-human dignity), 他人への思いやり (consider others), 環境 (natural environment), 国家意識の向上 (national unity), 協調性 (cooperation with friends, communities, and nations), 世界平和 (world peace) どのに関連した内容を含んだ教材を使用した・している事が分かる。しかし、30%以上の学習者は上記7点教材に含まれているか意識付けされていないので、もう少し興味のある内容を含んだ教材の開発が必要かもしれない。90%以上の学習者が「他人への思いやり」や「協調性」を日本語教材は扱って

る事を認識しているが、30%以上の学習者が「生命の尊重」「環境」「世界平和」についての内容を扱った教材が少ない事も指摘している。

また、85%以上の日本語学習者が「協調性」や「他人への思いやり」を扱った教材を歓迎しているのも理解している。更に、全体的には75%以上の学習者は上記7点の内容に就いて教材に含んだ方が良いと思っているので、CBIは学習者にとって受け入れ易いかもしれない。更に、各専攻別でも「他人への思いやり」「国家意識の向上」「協調性」について大多数の学習者が教材に含む事に賛成を示している、しかし、約35%のBiology/Chemistry/Health専攻の日本語学習者は「正義・平等」「環境」「世界平和」については必要を感じてはいないようである。結論として、アンケート調査の結果から学習者は内容を含んだ教材について興味を持っている事がわかった。これからの日本語教材は国語教科書のような内容を含んだ教材開発が可能であることがわかった。

付録

正義・平等 (justice and equality), 生命の尊重 (life and death-human dignity), 他人への思いやり (consider others), 環境 (natural environment), 国家意識の向上 (national unity), 協調性 (cooperation with friends, communities, and nations), 世界平和 (world peace)のオリジナルは下記の様に英語の質問であった。

1. Japanese language study materials emphasize justice and equality.
2. Japanese language study materials emphasize life and death (human dignity).
3. Japanese language study materials emphasize consider others.
4. Japanese language study materials emphasize the importance of the natural environment.
5. Japanese language study materials emphasize national unity.
6. Japanese language study materials emphasize cooperation with friends, communities, and nations.
7. Japanese language study materials emphasize world peace.

参考資料

ウェスリー・M・ヤコブセン (2007)、“米全国語学学習基準の3Cをめぐる課題—アメリカの大学における日本語教育の観点から”『日本語教育』133号、51-56.

光村図書(2000)『こくご1上 かざぐるま』

光村図書(2000)『こくご1下 ともだち』

光村図書(2000)『こくご2上 たんぼぼ』

光村図書(2000)『こくご2下 赤とんぼ』

文部科学省 (1998)、『新学習指導要領』

ACTFL (1996), *National Standards for Foreign Language Learning: Preparing for the 21st Century*.

Modern Language Association (2009), *Language Enrollment Survey 2009*, (http://www.mla.org/2009_enrollmentsurvey).

謝辞

Japanese Language Survey for the Next Generation Curriculum のアンケート調査にご協力を戴きました下記の緒先生、並びに学生の皆様に感謝申し上げます。

Koji Arizumi (University of Alabama); Fumiko Bacon (Seton Hall University); Masako Hamada (Villanova University); Naoko Ikegami (Lafayette College); Takehiro Kanaya (University of Montréal); Hiroko Kataoka (California State U. Long Beach); Chika Kobayashi (University of Alabama); Hiroko Ogino (Seton Hall University); Shigeru Osuka (Seton Hall University); Yukino Tanaka (Ursinus College); Yoshitomo Yamashita (Colby College).